

【研修参加学生の報告書から】海外歯科研修プログラムⅤ（インドネシア）

・今までは海外で使用されているものを取り入れれば「グローバル化」になると考えていたが、取り入れようとしているものがなぜその国で必要とされていて、使用されているのかを理解した上で行わなければ意味をなさないと感じた。そのためには各国の文化やライフスタイルを知り理解することが重要になると思われる。さらに、それらを詳しく理解するためには、現地の人とのコミュニケーションが必要不可欠となるため英語の役割が非常に大きいと研修を通じて感じた。どの人に会っても日本について興味津々で、たくさん質問を頂いた。このように海外のことについて知ろうとする積極的な姿勢を持つことが「グローバル化」につながるのではないかと感じた。今回、現地のライフスタイルを経験して、「グローバル化」というものは相手の国のことを十分に理解した上で行われなければ最大限活用されないものであると強く感じた。「グローバル化」はただ闇雲に海外の技術などをとり入れることでは成立しないということを、インドネシアという今まで詳しく知らなかった国に海外研修を通じて滞在することで学ぶことができた。
(歯・5年)

・今回の研修では、インドネシアの歯科医療について学ぶとともに食や宗教などの文化にも触れることができた。インドネシアでは9割ほどがイスラム教徒のため学内にも礼拝室があり、イスラム教徒の学生は一日に数回お祈りを行っていた。カトリックの学生も、イスラム教徒の友達がお祈りに行っている時間を把握し待っているなどお互いの宗教を尊重している姿が見受けられた。休日には仲良くなった学生と共にスラバヤ観光やショッピングに出かけ、交流を深めることができた。自分にとって同年代の外国人に囲まれ英語で交流するのは初めての体験であり、学生たちと自分の英語力の差を痛感したことで歯学だけでなく英語の学習意欲も高めることができ、非常に有意義な研修となった。
(歯・5年)

